

調査事例：VDT 作業〔目のかすみ⇒めまい〕

環境・健康

VDT の作業時間が長くなるとともに自覚症状〔目のかすみ〕を訴える割合が増加します¹⁾。この自覚症状〔目のかすみ〕の有無と自覚症状〔めまい〕の訴え率との関係を某健診機関での健康診断の受診者について調査した結果を下記表に示しました。男女、各年代とも自覚症状〔目のかすみ〕の有る受診者では無い受診者よりも自覚症状〔めまい〕を訴える割合が有意に高くなっています。

目がかすむなど、VDT 作業による目への影響がある場合は、目への影響を介して、さらにめまいなどの自覚症状を訴える割合が増加します。

1) kes Information No.172 調査事例：VDT 作業と自覚症状〔目のかすみ〕

〔目のかすみ〕の有無別〔めまい〕の訴え率（％）

性別	年齢	目のかすみ	
		有	無
男性	20~39 歳	11.4	1.7
	40~59 歳	6.2	1.5
女性	20~39 歳	16.2	5.0
	40~59 歳	9.3	3.2

令和元年 7 月 12 日から、『VDT 作業における労働衛生管理のためのガイドライン』は『情報機器作業における労働衛生管理のためのガイドライン』となっていますが、VDT 作業における労働衛生管理のためのガイドラインの基本的な考え方については変更されていません。

kes サポート

課 題	kes サポート
作業環境管理の状況調査	情報機器ガイドラインに基づく調査
作業管理の状況調査	情報機器ガイドラインに基づく調査
作業環境等の改善	労働衛生コンサルティング
作業者の衛生意識の向上	労働衛生教育